

いさわ



あと一息の山頂を目指す参加者

第41回岩手・秋田親善登山（焼石観光開発連絡協議会主催）は7月8日行われ、両県合わせて約200人が焼石岳山頂を目指しました。

快晴の青空の下、参加者は中沼登山口を出発。映し鏡のような美しさを見せる中沼や、可憐に咲く高山植物などの素晴らしい景色に励まされながら、昼ごろ山頂に達しました。

山頂で両県の参加者が合流し、ピッケルの交換や記念撮影などで友好を深めました。参加者の1人は「とても疲れたが、山に登ったという達成感があり、また登ってみたい」と満足そうに話していました。

山脈を越えた友好の架け橋
焼石岳の親善登山に200人

まちの話題



夏空の下で競馬場フェスタ

日差しに負けず子どもたちが躍動



衣装と芝のコントラストも鮮やかに踊るレインボーVキッズ

梅雨明けを思わせる青空が広がった7月22日、水沢競馬場で「夏空と躍動・みずさわ競馬場フェスタ〜今、みんなの力で前へ〜」が開かれました。

この催しは、水沢競馬場への親近感を高めて誘客を促進しようと市馬事文化振興実行委員会（会長・依田英晴水沢商工会議所会頭）が主催。キッズサッカーや演舞フェスティバル、サマーコンサートなどが行われ、多くの家族連れでにぎわいました。

キッズサッカーには、市内外の幼児や小学校低学年の児童150人が参加。緑まぶしい芝のグラウンドで元気いっぱいプレーを楽しみました。また演舞フェスティバルでは、フラダンスサークルや市内の各厄年連、年祝連など大人の演舞に交じり、レインボーVキッズの子どもたちがダンスを披露。その愛らしい姿に、観客から大きな拍手が送られていました。

ころもがわ

万一に備え心肺蘇生法学ぶ

労働災害の根絶を目指して



講師の説明に耳を傾ける参加者

衣川区建設業協会（関口一雄会長）が主催する平成19年度労働災害防止安全大会は7月24日、サンホテル衣川荘で開かれました。大会は、労働災害の根絶と明るい職場作りを目的に毎年行われているものです。

当日は同協会に加盟する8社から社員ら50人が参加し、労働災害の現状や事故防止、心肺蘇生法などについて学びました。

心肺蘇生法の講義では、胆江地区消防組合衣川分署の救急救命士を講師に、人形を使った人工呼吸や心臓マッサージを実習。参加者は万一に備え、真剣な表情で取り組んでいました。

公共の施設を地域が育てる

前沢でアドプト・プログラム調印式

7月12日、赤生津地区、母体地区によるアドプト・プログラム協定書調印式が前沢総合支所で行われました。北上川東部土地改良区（千葉長喜理事長）と市、両地区の代表者が出席し、協定書に調印しました。

アドプト制度は、地域の水路やため池、道路など公共施設の一部を「養子」に見立て、地域団体などが「里親」となって清掃や環境美化を行うものです。区内では3例目と4例目です。

協定を結んだ赤生津ふるさと水と土保全隊（初負行責代表）、母体ふるさと水と土保全隊（菊地政平代表）は、今後住民が主体となり水路などの管理に当たります。



協定書に調印後握手を交わす関係者

まえさわ

みずさわ

宇宙のロマンに触れた1日

国立天文台水沢観測所で特別公開

階段にいる人たちが小さく見える巨大な電波望遠鏡



「惑星研究の最前線〜探査機で観る月の新しい姿〜」をメインテーマに国立天文台水沢VERA観測所は7月28日、施設の特別公開を行いました。夏休みに入ったばかりということもあり、会場には大勢の子どもたちや天文ファンが訪れ、果てしなく

広がる宇宙のロマンに触れていました。

「ペットボトルロケットを飛ばそう」など14ものコーナーが設けられ、中でも特に人気を集めたのは20メートルの巨大な電波望遠鏡の内部を見学する「アンテナツアー」。めったに登ることのできない貴重な体験だけに、予約がすぐにいっぱいになる大盛況ぶりでした。

ドキドキわくわく冒険気分

親子で北上川ボート下りに挑戦

江刺愛宕地区振興会（北條則道会長）が主催する北上川ふるさと探索ツアーは7月29日、地元地区の小学生と保護者ら約60人が参加して行われました。

ツアーは子どもたちが川と触れ合い、自然を理解していく機会を作ろうと2年前から行われています。今回は北上川の金ヶ崎橋付近から桜木橋上流東岸の「江刺北上川水辺の楽校」付近までの約4キロを、川の流れを体験しながらゴムボートで下りました。

北條会長は「この体験を通して冒険心やいい度胸が付いたようだ」と子どもたちの成長ぶりに目を細めていました。



余裕しゃくしゃくの小学生

えさし